

Press Release

2004年10月14日

大日本インキ化学工業株式会社
東京都中央区日本橋3丁目7番20号
社長：小江紘司、資本金：824億円

中国・張家港における導電・磁性コンパウンドの生産開始について

当社は、中国・江蘇省張家港市に、導電・磁性コンパウンド事業の拡大と生産拠点の再構築による収益力向上を目指して、かねてより導電・磁性コンパウンドのプラント建設を進めてきましたが、さきごろ完成し、10月より本格生産を開始しました。

当社は、成長著しい中国・華東地区においてDICグループとして積極的に取り組むために、張家港保税区内の江蘇揚子江国際化学工業園に、約20万平方メートルの土地使用権を取得するとともに、100%出資による子会社、張家港迪愛生化工有限公司を設立し、複数の事業部門が同一の用地で事業を行う複合工場の建設を進めています。

このたびの導電・磁性コンパウンドプラントは、その第一弾として稼働を開始したもので、年産能力10,000トン。導電コンパウンドは半導体の後工程分野で必要なIC運搬用トレーの材料として、また磁性コンパウンドは小型モーターの成形材料として使用されるもので、華東地区では上海を中心に市場拡大が顕著になっています。当社では張家港をグローバルな生産拠点として位置づけ、中国国内はもちろん、日本や東南アジアにも供給していくこととしています。

さらに現地で需要が急増している繊維用原液着色剤の生産を2005年7月より開始し、液状油性・水性着色剤の生産も計画しています。

なお現在、当社は張家港において、導電・磁性コンパウンド、繊維用原液着色剤の他、ウレタン樹脂、改質剤、塗料用樹脂など合成樹脂のプラントを建設しており、来春からの生産開始を予定しています。また、当社グループでは星光PMC株式会社が製紙用薬品で進出することとしており、当社と東亜合成株式会社との合併会社、張家港東亞迪愛生化工有限公司も紫外線硬化型モノマーの工場を建設しています。

以上